

「食道疾患レアケース・アトラス」

日本食道疾患研究会 編集

国際親善総合病院院長

掛 川 暉 夫

この度日本食道疾患研究会(編)として出版された「食道疾患レアケース・アトラス」は第52回日本食道疾患研究会を主宰した神奈川県立がんセンター院長・小泉博義先生が主題の1つに選んだ「見て良かった稀な食道疾患」全国応募118題の中より特に興味深い症例58例を厳選し、アトラスとして出版したものである。本書をひもといてみると、とかくわが国におけるこの種の著書は、症例の偏りもありやむを得ない点もあるが、癌が中心となる傾向が強い中で、極めて特異的な特徴を示し、半世紀近く食道疾患の治療に従事して来た私にとっても、初めて目にしえた珍しくかつ貴重な症例が集積されており、永年探し求めて来た宝物に出会ったとき興奮を覚える。ま

さに幕末の学者が蘭学の書を手にした状況と言っても過言でない。

本書の内容を簡単にかいつまんで紹介すると、大項目が良性疾患と悪性腫瘍に大別され、良性疾患では先天性疾患から始まり良性腫瘍、ポリープ、特異性炎症疾患など7項目に細分され、しかもそれぞれの疾患の症例がまさに今まで目にしたことのないまれな貴重な症例の集積である。悪性腫瘍の項も、癌腫、肉腫、黒色腫など7項目に細分され良性疾患同様、それぞれの項の中に今まで経験したことのない貴重な症例が集められている。しかも症例が厳選されているため、すべての症例において写真、組織像などのアトラスが極めて鮮明に描写されており、本書の価値を更に高めている。またそれぞ

れの症例の解説も明解に記され、単なる症例の紹介だけでなく治療、予後、更にはそれに関連する文献まで網羅し、日常の臨床にも直ちに应用できるよう、きめ細かい配慮がなされている。まさに目で見える食道疾患の実用的図鑑である。

したがって食道疾患の治療に従事する者にとっては必携の書であることは当然のことながら、広く医学に携わる者にとっても極めて有用な書となりうるものと確信し、本書を強く推薦する次第である。

● A4 頁240 図5 写真237
カラー写真456 色図3 表6 1999
定価(本体24,000円+税) 円400

医学書院 刊(☎03-3817-5657)